

求められている行動力

えのもと ともこ
榎本 朋子

●自治労 総合企画総務局長

昔も今も嘘をつく人は少なくありません。人をだましたりごまかそうとしたり、事実とは異なることを言う際に人は悪の嘘をつきますが、そうばかりとは限りません。「嘘も方便」は物事を円滑に進めるためには、時と場合により必要なこともあるでしょう。嘘をつくことはもともと悪いことですが、どちらかといえば「嘘も方便」という慣用語は、善の意味を表すことが多いのではないのでしょうか。「うそ」は漢字をあてると口へんに虚しいと書いて「嘘」。虚しく事実でないことを言うてしまうことを表現したものです。虚しいことを話しても、人はすぐにそれを見破ってしまいます。

今年は参議院選挙がありました。また、来年は統一自治体選挙の年であり、労働組合に身を置く者としては、大事な政治闘争が続きます。私たちが生活するうえでの身近な問題はもとより、職場や地域の課題をはじめ、いろいろなことを「嘘のない言葉として伝えていく」ことが求められています。

選挙の時によく使う言葉に知名度というものがあります。この知名度を広めるために政策や公約を十分に語らないままに、選挙戦を終えてしまう候補者も多くいます。新聞やテレビなどでも、候補者の知名度不足を報道し、そして選挙終盤にはどの街宣車も候補者の名前を連呼する、ただただ騒々しいだけの選挙戦に終始しています。

過去には「私は嘘を申しません」と明言した首相がいました。その言葉通り政策も実行したそうです。どのような政策や環境下であっても

評価はつきものかもしれませんが、職業や職種、置かれた立場の如何を問わず、自分が言ったことに責任が伴うことを忘れてはなりません。「嘘も方便」という言葉は大衆が使う言葉であり、政治家が使うとただの嘘つきになってしまいます。「政治家の握るマイクには国民の暮らしと命がかかっている」と言ったのは、日本の元トップだった人の言葉です。

年代や考え方にこそ違いはあれ、国民のことを思う、そして嘘のつかない政治家になって欲しいと思います。

近年、労働組合の組織率の低下や活動力の衰えが深刻になっています。例外なく当組織も組織人員の減少に歯止めがかかっていませんが、組織を牽引する立場の者は、今の時代、これからの時代、そしてずっと先の時代を見通す先見の明が大事になってきます。言うまでもなく、そのためには組合員の声を聞き、一緒に活動していく中で方向性を見出していくことが必要です。

私たちはとにかく批判したり非難したりと責めることは得意です。最近よく言われる「聞く力」はどんな場面でも必要なことですが、その上で自分の頭で考え、そして「語る力」と「行動する力」がいま求められているのではないのでしょうか。

自分自身の嘘のない正直で素直な言葉で伝え行動する。——「～できない」という理由探しではなく、「～こうしたらできる」探しを求めて、組合員とともに活動していきたいと思えます。